

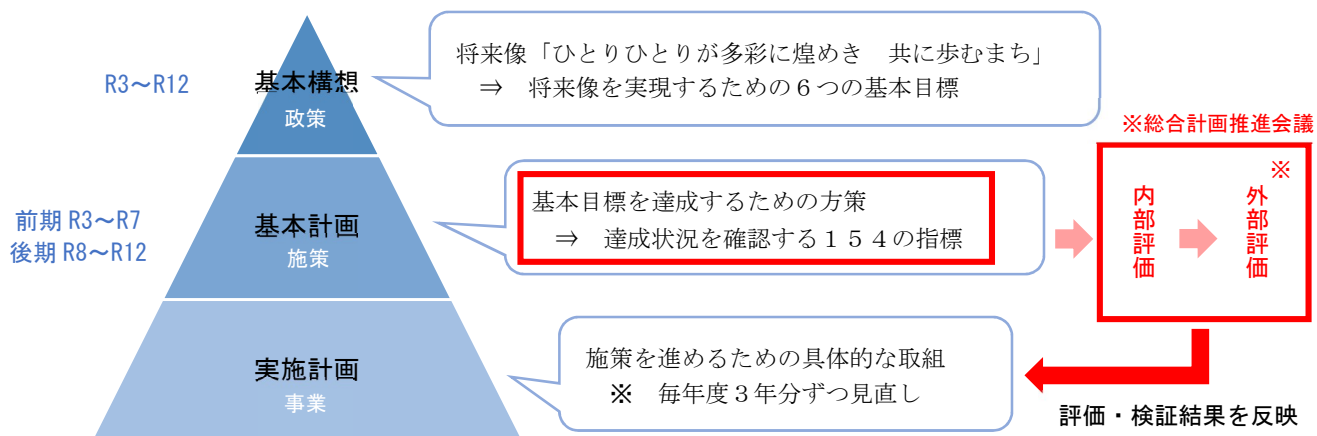
第 2 次石巻市総合計画 施策評価結果（令和 7 年度実績）【概要】

第 2 次石巻市総合計画

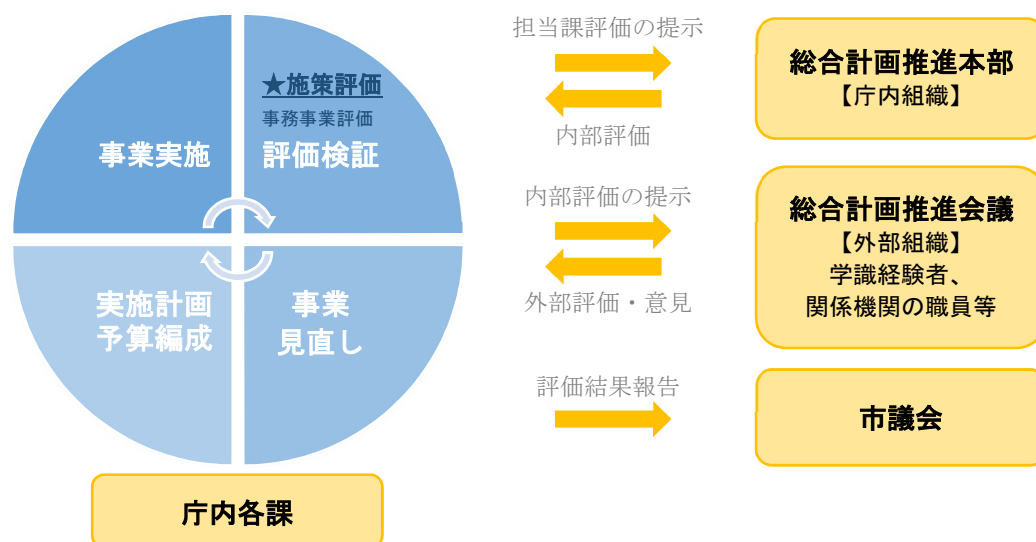
総合計画基本計画	4
第 2 期 復興・創生期間に係る対応方針	19
地方創生の取組	20

1 総合計画の進捗管理

令和3年9月に策定した第2次石巻市総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画で構成しています。
前期基本計画では、将来像及び6つの基本目標の達成に向けた基本施策を定めており、その達成状況を毎年度評価・検証することにより、施策の進捗管理を行います。



2 前期基本計画の推進体制



3 令和8年度会議開催状況

日程	会議	内容
5月28日(木)	第1回 石巻市総合計画推進本部幹事会	内部評価
6月2日(火)	〃 石巻市総合計画推進本部会議	
6月25日(木)	第1回 石巻市総合計画推進会議	外部評価
7月10日(金)	第2回 〃	
7月13日(月)	第3回 〃	
8月7日(金)	第2回 石巻市総合計画推進本部幹事会	評価結果報告
8月24日(月)	〃 石巻市総合計画推進本部会議	

4 評価・検証方法

内部評価

定量評価

① 達成度：指標の目標値に対する達成率から a ～ d の 4 段階に分類しました。
a：100%以上、b：80～99%、c：60～79%、d：～59%

② 各指標の①「達成度」から4段階で評価

基本計画

各KPIの「①達成度」から4段階で評価

◎：「aまたはb」のみでaが半数以上

○：「aまたはb」のみでaが半数未満

△：「cまたはd」がありdが半数未満

×：dが半数以上

復興創生／地方創生

各KGIの「①達成度」から4段階で評価

◎：a（どちらもa）

○：b（どちらも「aまたはb」）

△：c（どちらかが「cまたはd」）

×：d（どちらもd）

※括弧内はKGIが2つの場合

定性評価

③ 施策の効果や取組状況から担当課において3段階で評価しました。

◎：課題を改善し効果を上げることができた

○：課題の改善に取り組んでいる

×：課題が改善されず効果が上がっていない

④ 定性評価と定量評価を掛け合わせた右の基準から市の「内部評価」を決定しました。

A：順調

B：概ね順調

C：やや遅れている

D：遅れている

		定性評価		
		◎	○	×
定量評価	◎	A	A	B
	○	A	B	C
	△	B	C	D
	×	C	D	D



外部委員評価
【総合計画推進会議】 施策の達成状況について、評価シートに基づき担当課より説明を行った後、質疑応答及び施策に対する御意見をいただきました。 【評価の視点】 ○内部評価の妥当性（市の施策と市民目線がかけ離れていないか） ○遅れている施策（CまたはD）を推し進めるための意見 【評価方法】 以下の基準により各委員から評価をいただき、最も多い評価を外部評価としました。 A：順調、B：概ね順調、C：やや遅れている、D：遅れている

5 外部評価結果

(1) 集計

評価項目		A 順調	B 概ね 順調	C やや 遅れて いる	D 遅れて いる
基本計画	第1章 住民同士の絆・支え合いで 安全安心に暮らせるまち（全6節）	3 (3)	1 (1)	2 (2)	0 (0)
	第2章 都市と自然が調和し快適とやすらぎが 生まれるまち（全3節）	1 (0)	1 (1)	1 (2)	0 (0)
	第3章 共に支え合い誰もが生きがいを持ち 自分らしく健康に暮らせるまち（全5節）	3 (2)	0 (1)	2 (2)	0 (0)
	第4章 多彩な人材が活躍し 誇りと活気にあふれるまち（全6節）	3 (2)	0 (0)	3 (4)	0 (0)
	第5章 豊かな心を育み いのちを未来につなぐまち（全6節）	5 (6)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
	第6章 市民の声が共鳴し 市民と行政が共に創るまち（全2節）	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)
	小計（全28節）	16 (14)	2 (3)	9 (11)	1 (0)
復興 創生	第1章 第2期 復興・創生期間に係る 対応方針（1対応方針）※	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	小計（1対応方針）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
地方 創生	第1章 人口戦略の推進（4対応方針）	0 (0)	0 (0)	3 (3)	1 (1)
	第2章 未来都市の実現（1対応方針）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	小計（5対応方針）	1 (1)	0 (0)	3 (3)	1 (1)
計		18 (16)	2 (3)	12 (14)	2 (1)

※括弧内は昨年度評価。

※なお、第2期復興・創生期間に係る対応方針について、令和5年度（令和4年度評価）で評価が1節終了したため1節のみの評価となった。

(2) 内訳 ※委員評価数は会議の出欠数等により委員数 25 名より少なくなっています。

① 第 2 次石巻市総合計画

【基本計画】第 1 章 住民同士の絆・支え合いで安全安心に暮らせるまち								
第 1 節 共生型社会に向けた地域コミュニティ活動活性化の充実						▶▶▶ 評価シート P1～P2 参照		
外部評価	A	委員評価数				内部評価	A	定性評価
		A	B	C	D			◎
		17	1	0	0			◎
主な意見	・各地域で高齢化が進む中で、住民同士が交流できる場を作ることができたことは評価できる。継続し、取り残される住民がいなくなるよう、今後も努めていただきたい。 ・友好都市との交流で、市民参加型事業の実施は大変良かった。 ・地域まちづくり委員会では、いろんな人材が集まり集中して地域課題について話し合うことができたが、若い世代の委員がいなのは残念。 ・地域まちづくり委員会の委員に、今まさに子育てしている小中学校の P T A 会長さんを入れてはどうか。会議を夜に持てば、現役で働いている人も参加しやすい。							
今後の方向性	総合支所によっては、小・中学校 P T A 会長に委員として参画いただいている事例があります。いただいたご意見を踏まえ、次期委員改選時に、地域の実情も踏まえながら、P T A 会長等の現役世代の参画について検討してまいります。あわせて、夜間開催を含めた会議運営についても検討してまいります。							
第 2 節 少子高齢化社会に対応する移住・定住の促進						▶▶▶ 評価シート P3～P4 参照		
外部評価	A	委員評価数				内部評価	A	定性評価
		A	B	C	D			◎
		17	1	0	0			◎
主な意見	・移住人数、外国人住民数ともに目標値を上回っているのは、努力の表れである。 ・外国人移住に関しては、賛否あると思うが、少子高齢化や若者の都市部への流出が進む中、外国人の受入は幅広にする一方で、厳しい検査もお願いしたい。 ・移住対策事業について、今後さらに移住者を増やすための石巻市独自の工夫が必要である。 ・石巻市への移住人数を増やすために、空き家や休耕地の活用や営農指導、販売紹介などの支援をバックし誘致してはどうか。							
今後の方向性	本市では、空き家バンクによる住まいの情報提供を行っているほか、二地域居住事業において、空き住戸を活用した滞在と一次産業体験をパッケージ化し提供するため、準備を進めているところです。 今後も、こうした取組を効果的に組み合わせながら、移住希望者にとって分かりやすく魅力的な移住支援となるよう取り組んでまいります。							

第3節 安心して暮らすための地域防災力などの向上							▶▶▶ 評価シート P5～P6 参照		
外部評価	C	委員評価数				内部評価	C	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	△
		0	3	15	0				
主な意見	・防災マップの配布、防災無線の活用、防災アプリの普及、各地区での備蓄品の整備など年々安全安心に暮らすための環境が整ってきている。 ・防災訓練の参加率について、働いている人の参加は平日でも休日でも難しい。市の防災訓練に参加できなくとも、個別で防災訓練を実施している企業はもっとあると思うが、その数値も算出して評価として入れ込んだ方がよいのではないか。 ・災害はいつ起こるか分からないので、訓練の日を休日だけではなく、平日開催するなど、条件を変えて実施することも検討してみてはどうか。								
今後の方向性	平日開催については、働いている方の状況を考慮すると、休日よりも参加者の確保が難しい現状もありますが、令和6年度および令和7年度は、平日の午後をステージゼロに設定し、訓練想定を登録メールへ配信し図上訓練ができるようにしたことにより、平日参加ができるような工夫も行っています。令和8年度は夜間避難訓練も計画しており、今後も参加率の向上に努めてまいります。								

第4節 誰もが平等に生きるための男女共同参画社会の推進							▶▶▶ 評価シート P7～P8 参照		
外部評価	C	委員評価数				内部評価	C	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	△
		0	2	15	1				
主な意見	・誰もが平等に生きるための男女共同参画社会の推進に向けて、女性の人材育成に取り組んでいる点は評価できます。一方で、人材育成だけでなく、その人材が活躍できる機会を創出する仕組みづくりも重要であると考えます。 ・建設・水産関係はどうしても男性中心になるのは仕方がない。その分、福祉や教育、このような会議やまちづくり委員会などは、充て職だからと逃げずに、女性の方を6割7割にしていきたい。 ・行政区及び行政委員に関して必ず正副を任命することとし、いずれかを女性にすることで、地域内の女性人材を発掘できるのではないか。								
今後の方向性	本市の自治会等役員（会長、副会長、会計、幹事等）における女性の割合は、10月1日時点の調査において、令和7年度は22.1％となっており、前年度20.5％より上昇しております。 町内会・自治会の運営は各地域の自主的な取組に基づくものであり、行政委員の選任につきましても各町内会等からの推薦により、市が選任しております。 引き続き、男女がお互いに人権を尊重し、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現に向けて、地域における女性の登用について周知啓発を図ってまいります。								

第5節 持続可能な公共交通ネットワーク整備の推進							▶▶▶ 評価シート P9～P10 参照		
外部評価	A	委員評価数				内部評価	A	定性評価	◎
		A	B	C	D			定量評価	◎
		13	4	1	0				
主な意見	・これだけ自動車社会になると、公共交通機関の利用が減り、そのため路線バスが縮小されるのは仕方がない。その補完として、自家用自動車を利用できない方への支援として、助成券を住民バスやタクシーにも拡大したことは評価できる。 ・利用者が少ない時間帯はデマンド型交通への転換、ライドシェアの推進、タクシー事業者との協業など、バス路線や鉄道の維持にこだわることなく、先駆的な交通ネットワークを構築する方向で再考が必要かと思う。 ・自動運転技術の導入を見据えた取組を積極的に進めてはいかがでしょうか。石巻地域が自動運転の実証実験や導入に向けた特区として国に働きかけることで、地域交通の利便性向上や運転手不足の解消につながる事が期待されます。将来を見据えた先進的な地域交通政策として検討していただきたい。								
今後の方向性	自動運転技術の実証実験や導入には、車両導入費に加え、ソフト・ハード両面の環境整備が必要であり、実証後も継続的な維持管理や保守費用等、多額の費用と専門的な技術を要します。本市では、限られた財源の中で、路線バスや住民バス、乗合タクシーの維持・改善を優先していることから、現時点で自動運転の実証実験や導入を進めることは、費用対効果や事業実施体制の面から難しいものと考えております。 今後は、国の支援制度や技術の進展、仙台市をはじめとする先進自治体の実証結果を注視し、本市への適用可能性について情報収集を進め、導入コストの低減や制度環境が整った段階で導入を検討してまいります。								

第6節 未来につなぐ震災伝承の推進							▶▶▶ 評価シート P11～P12 参照		
外部評価	B	委員評価数				内部評価	B	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	○
		1	17	0	0				
主な意見	・震災遺構の来訪者数以外の評価として、震災後15年が経過し、人々の関心が薄れつつある現在、震災遺構の関係者の努力をもっと評価しても良いと考える。 ・子ども向けの防災学習行事の開催、震災遺構のライトアップ、英語表記の整備、旅行会社への訪問など、震災遺構を活用した取組は非常に評価できる。これらは、震災の記憶と教訓を次世代に継承するだけでなく、石巻ならではの学びや交流の機会を生み出す重要な取組であると考えます。今後も、震災遺構を石巻の強みとして位置づけ、防災教育、震災伝承、観光まちづくりの観点から、さらに発展させていただきたい。 ・事業者向けの防災研修プログラムを設定することで、施設来訪者の増加につながるといいのではないかと思います。								
今後の方向性	教育旅行や企業研修において研修プログラムを提供することは、満足度を高める上でも重要です。管理運営を担う指定管理者と連携し、ニーズの把握に努め、研修プログラムの充実を図るよう取り組んでまいります。								

【基本計画】第2章 都市と自然が調和し快適とやすらぎが生まれるまち

第1節 豊かな自然環境の保全・生活環境の充実

▶▶▶ 評価シート P13～P14 参照

外部評価	B	委員評価数				内部評価	B	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	○
		0	18	0	0				
主な意見	・環境に配慮した生活については、市民の主体性が求められる。自治会等の活動を含めた「地域協働のまちづくり」が今後ますます重要になると考える。 ・行政区ごとに日時を決めて、自分が住む地域のごみ拾いや除草作業に取り組む姿勢をみんなが持っていて、当たり前に取り組んでいることが素晴らしい。 ・太陽光発電は、山を崩すのではなく、屋根や駐車場などに設置できるような補助を積極的につくってほしい。 ・太陽光システム等設置も増やすことも大事だが、耐用年数経過後の処分費用や方法についても教えてほしい。								
	太陽光パネルは法定耐用年数経過後も、設置から20～30年程度は発電し続けます。その後、発電効率低下や屋根のリフォームに伴う撤去費用は、一般家庭（5kW）で30万～50万円が相場です。現在の処分方法は埋め立て処理が主流ですが、2030年代後半以降に見込まれる大量廃棄に備え、国ではリサイクル義務化を目指しております。								

第2節 持続可能な社会を目指すごみの減量化と資源循環の推進

▶▶▶ 評価シート P15～P16 参照

外部評価	A	委員評価数				内部評価	A	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	◎
		17	0	1	0				
主な意見	・ごみの減量化と資源循環の推進は今後さらに重要になる。「もったいない運動」など市民を上げて推進する必要がある。 ・少子化や人口減少が進む中、新ごみ処理施設の整備に当たっては、将来を見据えた適正な施設規模の検討が重要であると考え。一方で、建設費の高騰により当初計画の見直しや規模の縮小が求められていることから、施設整備だけでなく、市民一人ひとりのごみ減量への協力がこれまで以上に重要になると思われる。 ・本年10月から始まるプラスチックの分別収集については、まだ知らない市民が見受けられるので、周知徹底が必要だと感じている。								
	プラスチックの分別収集開始に当たり、各世帯へのチラシの配布、地区別住民説明会の開催、各町内会等への出前講座の実施及び市ホームページ等で周知を図っており。今後も、10月の開始前に、再度住民説明会の開催、市報特集ページの掲載及びAIを活用したごみ分別案内サービス等を活用し、市民に広く継続的に周知を図ってまいります。 また、周知にあたりましては、委員からの御意見を参考に、分別収集の促進により、燃やせるごみの削減に伴うCO₂排出量削減や環境保全への貢献及び資源の有効利用等についても併せて周知を図り、市民一人ひとりの意識向上に努めてまいります。								
今後の方向性									

第3節 安全安心な住環境と都市機能の整備の推進							▶▶▶ 評価シート P17～P20 参照		
外部評価	C	委員評価数				内部評価	C	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	△
		0	2	16	0				
主な意見	・都市型居住地促進エリア以外の地域について、医療や住民のニーズに合った交通整備など、今後も努力をしていってほしい。 ・空き家についての相談会を実施していることは良いことだ。 ・石巻港取扱貨物量については、保管・物流面での経済効果が大きいことから、官民一体となって増加を目指してほしい。 ・中心部への人口の集中には、魅力的な住宅と宅地の供給が欠かせない。そのための政策はどう進められているのか。もし進んでいるのであれば、それをもっと市民に知らせて欲しい。 ・都市型居住促進エリアへの移転について、庁舎内に域内移転推進を専門に行うチームを作り、専門官が時間をかけて信頼を醸成し、対象住民と丁寧に対話しながら進めていくことが大切ではないだろうか。								
	居住誘導を含む石巻市立地適正化計画の推進にあたっては、令和7年6月に8部20課で構成する庁内検討会議を組織し、その会議内に専門的に調査・研究する目的で設置した実務担当者によるワーキンググループにおいて、施策の検討等を行うこととしております。 また、計画の進捗については、専門的な見地からの意見や住民意見を反映するため、学識、市民等で構成する懇談会等を組織し、概ね5年ごとに評価することとしております。								
今後の方向性									

【基本計画】第3章 共に支え合い誰もが生きがいを持ち自分らしく健康に暮らせるまち

第1節 安心して妊娠・出産・子育てができる環境の充実

▶▶▶ 評価シート P21～P22 参照

外部評価	A	委員評価数				内部評価	A	定性評価	◎
		A	B	C	D			定量評価	◎
		14	1	0	0				
主な意見	・「産前産後プランの作成」も目標値を大きく上回っていて、ニーズをすくい上げて対応しているのだと思った。 ・子育て関係に関する各K P Iについて、きめ細やかな対応をしており、成果に結びついている。少子化が進行する中で、今後は石巻独自の施策を打ち出す必要がある。 ・取組と成果を見てみると、どこの市区町村でもやっている内容だと感じた。石巻市独自で行っているサービスがあるのか、あるいは他の市区町村と比べるとこのサービスがすごい、みたいなものがあれば、教えてほしい。								
今後の方向性	「産前産後プランの作成」については、他の自治体では行っていない部分があると思います。核家族化によって出産に対する不安等を抱えていても、細かいことを聞けないという方に対し、1対1で相談に応じ、出産をゴールとすると「いつの時期に何を行うのか」という具体的なプランニングを行い、出産後も、どこでどのような手続きを行うのか、産後うつなどに陥っていないかなど、電話でやりとりを行う、きめ細やかな伴走型支援を実施しております。 2人目以降の出産になる経産婦や、家族の助けがある方についても、自分でプランニングができるよう支援員と一緒にプランシートを作成するという支援体制は、石巻市独自のものであると考えております。								

第2節 生きがいを持ち自分らしく暮らせる高齢者福祉の充実

▶▶▶ 評価シート P23～P24 参照

外部評価	C	委員評価数				内部評価	C	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	△
		0	1	13	1				
主な意見	・身近に高齢者福祉に接している感覚としては、生活支援や楽しく過ごすためのサービスがいろいろ増え、利用もしやすくなっていると感じている。 ・「生きがいを持つ高齢者」を増やすためには「地域社会に必要とされている高齢者である」と感じる事が出来る事業がもっとあると思う。 ・介護予防の取組の推進について、理学療法士による訪問事業の申請者数が少ないとあるが、住民にPRが行き届いているのかも含め、周知方法を検討してはどうか。								
今後の方向性	訪問事業の対象者は、要支援の介護認定を有する高齢者等と定められており、介護支援専門員等が作成する介護サービス計画書に本事業が位置づけられることから、専門職への周知を実施してきました。 地域住民に広くPRすることで、本事業の対象外の方（一般高齢者）からの申し込みが多くなり、非該当となる申請者が増加する可能性が考えられるため、今後も、対象となる方へ必要な情報が適切に届くよう、関係機関と連携しながら効果的な周知に努めてまいります。								

第3節 共に安心して暮らせる障害福祉の充実							▶▶▶ 評価シート P25～P26 参照		
外部評価	A	委員評価数				内部評価	A	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	◎
		14	0	1	0				
主な意見	・この20年でよくここまで改善されてきたなと感じている。障害のある人もない人も安心して地域で自分らしく暮らしていける社会にすることが目標であるが、障害者に対しても自分のことと受け止め、そのような人に優しい街であるように、支え合う石巻を目指した意識改革が大切だと考える。 ・福祉サービスで最も大切なのは、障害者と接する介護者の方々だと思うので、その人たちが少しでも気持ちよく働けるように環境を整えてほしい。 ・事業者が適切に支援事業を行っているかどうか、監査活動等を石巻市では適切に行われているのかについて、教えてほしい。								
今後の方向性	適切な監査という点についてですが、サービス事業者に対しての指導等につきましては指定権者が県ということもあり、県の方で監査に入っているところになります。市の方でもサービスの決定等に関して、適正に行っているかどうか、県と一緒に監査に入ることはできますが、正直に言いますとこれまであまり行っていなかった部分でもあります。今年度からは、県と一緒に実地指導に同行しまして、学びながら適正な事務指導を行っていく予定となっております。								

第4節 誰もが元気に暮らせる心と体の健康づくりの推進							▶▶▶ 評価シート P27～P28 参照		
外部評価	A	委員評価数				内部評価	A	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	◎
		12	3	0	0				
主な意見	・休日当番医の実施率については100%維持が実現されて素晴らしいと思った。しかし、目標としていいのかどうかは、非常に疑問である。 ・健康のためには運動と食事です。健康社会のためには協力と協調が必要なので、具体的な運動指標を示してほしい。 ・心と体の健康づくりのためのKPIが、がん検診受診率や休日当番医実施率でいいのか検討すべきである。								
今後の方向性	後期の基本計画では、下記の通りKPIを設定し、KGIとの整合性を図ってまいります。 KPI①：メタボリックシンドローム該当者及び予備軍の割合 （40歳～69歳・市町村国保＋協会けんぽ被保険者） KPI②：市内医療機関数の対人口10万人あたりの施設数（病院・診療所） 主な取組としては、心と体の健康づくりのため、生活習慣病の発症や重症化を予防するための指導及び普及活動を推進します。また、地域医療提供体制の充実のため、地域医療を支える医療体制の確保に努めます。								

第5節 みんなが共に支え合う地域共生社会の実現						▶▶▶ 評価シート P29～P31 参照			
外部評価	C	委員評価数				内部評価	C	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	△
		0	0	15	0				
主な意見	・地域協働のまちづくりは、今後ますます重要になると考える。市民が主体的に活動するための抜本的な制度を構築すべきである。 ・地域の連携が大事。理想は助成金に頼らず活動できたらと思っている。しかし、人材不足でいつまで活動が続けられるか心配である。 ・「共に支え合い誰もが生きがいをもち自分らしく健康に暮らせるまち」について、問題を解決すればそれで終わりという現状が多く、共に支え合うことが実際にできているのか、甚だ疑問に思っている。地域の担い手不足の問題もあるので、みんなで支え合うことができなくなっていると感じている。 ・奨学金返還について、対象業種を拡大していただきたい。石巻ならではの働き手（水産、土木関係）や、石巻専修大学から石巻市内に就職する人を対象にするなど、せっかくある支援制度をもっと使っていただくために少しでも間口を広げてほしい。								
	共に支え合うという部分について、市では様々な事業を行っておりますが自助・互助・共助・公助の4つの階層のバランスは当然大事なものであり、市では互助活動の促進を含めた様々な取組を実施しております。少子高齢化に伴う担い手不足等、様々な要因が複合的に重なることで、共に支え合うという意識が全体的に薄れてきている現状は、これからは少しずつ悪化する可能性もありますが、このような部分に、市の事業をもって様々な角度からアプローチすることで、「地域で支え合いが行われていると感じる市民の割合」を向上させていきたいと思っています。 移住・定住に関する取組の中で、「定住促進奨学金返還支援事業」を実施しており、令和7年度は46人の利用実績がありました。市では様々な目的の中、複数の奨学金を行っており、こちらの奨学金では本市に住み続けたいと思ってもらえるよう、定住を目的として実施しております。現状の奨学金返還支援事業だけでは足りないという視点は、今後の課題として認識しております。								
今後の方向性									

【基本計画】第4章 多彩な人材が活躍し誇りと活気にあふれるまち

第1節 賑わいと活気にあふれる商工業の振興

▶▶▶ 評価シート P33～P35 参照

外部評価	C	委員評価数				内部評価	C	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	△
		0	1	14	0				
主な意見	・石ノ森萬画館や元気いちばの利用者が毎年増加していることはうれしいことである。萬画館のリニューアルもなされ、街の中のモニュメントも少しずつ増え、継続的に頑張してほしいと思う。 ・ブランド育成件数が3件にとどまったのは残念である。今後とも団体と協力しあいながら、販売促進や販路開拓に努めてほしい。 ・地産地消が進むように、例えば「金華サバの日」とか「北上雄勝産わかめの日」とかを決めて、普段より安くしてどこのスーパーでも買えるようにするとかPRできないだろうか。								
	地域で生産された農・水産物を、その地域で消費することは、農・水産物を作る生産者だけでなく、消費者にとってもメリットがあるものと考えます。消費者が地産地消に取り組むことで、地域社会や一次産業の担い手を、食べて支えることができます。 単に安く売るなどの「単発的なイベント」ではなく、生産者にとって持続可能なPR方法となることも重要な視点ではありますが、一番は、地元の消費者が地元の農・水産物等の商品（生産者）を「買って応援したくなる」存在となれるよう、「石巻市6次産業化・地産地消推進センター」と連携し、生産者と共に地産地消の意義について、あらゆる機会を通じて、消費者にPRしてまいります。								
今後の方向性									

第2節 持続可能な漁業・水産加工業の振興

▶▶▶ 評価シート P37～P39 参照

外部評価	A	委員評価数				内部評価	A	定性評価	◎
		A	B	C	D			定量評価	◎
		11	4	0	0				
主な意見	・海洋の環境や生態系の保全に取り組む団体数を維持していることや、水産物輸出額の増加は、海洋環境の変化や人材不足の中、取組や成果について評価できる。 ・石巻漁港水揚げ数、水産物輸出額をさらに向上できるよう、環境整備・販路拡大など支援をお願いします。 ・自然物、農作物のブランド化について、倫理観を持たずに拡大してしまうと、ブランドそのものの品質が落ちる可能性があります。この倫理感を生産者側に持たせるような施策は行政にしかできませんので、このような自然のものに対する指導については、徹底的に行う覚悟を持って、取り組んでいただければと思います。 ・新規水産業就業者数に係る離職者数について、離職者を極力少なくするための方策も今後は重要と考える。								
	新規就業者の離職防止に向け、就業前の職場体験を通じて就業後のミスマッチを防ぐとともに、関係機関と連携しながら労働環境や就業条件の改善を進め、働きやすい職場づくりを支援します。また、就業後は定期的なフォローアップや意見聴取を実施し、課題を早期に把握・対応することで、定着促進に努めてまいります。								

第3節 魅力的な農林畜産業の振興						▶▶▶ 評価シート P41～P44 参照			
外部評価	C	委員評価数				内部評価	C	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	△
		0	0	14	1				
主な意見		・新規就農者に対する一貫した伴走型就農支援を行っていくことは、とても良いことだと思った。 ・農畜産物のブランド化をさらに進める工夫が必要である。案として、捕獲したニホンジカの利活用を工夫することはできないだろうか。 ・倒木等で山が荒れている所が多く見られる印象がある。手間と予算がかかると思うが、実施率を上げる努力をお願いしたい。 ・昨年より市街地に熊の出没が急増して、空き家・荒れた耕作地の回復の必要性が話題となっている。本庁地区だけでなく、支所ごとに地域住民の意見を求めて優先的に森林間伐を行い、野生動物の生息場所の緩衝地等を回復させて被害の抑制を目指してはどうか。							
今後の方向性		市内で捕獲されたニホンジカについては、およそ10％が市内2つの処理施設で加工され、ジビエとして利用されています。令和6年度にはジビエ鹿肉市場開発コンソーシアムが立ち上がり、ジビエ活用の推進に取り組んでいることから、設備の拡充を事業者が望んだ場合は、該当する交付金の申請手続き等、引き続き支援してまいります。 また、森林間伐については、本庁地区及び支所地区における手入れが行き届かない森林について、所有者の意向調査を行った上で計画的に間伐を実施し、適切な森林の管理を実施してまいります。							
第4節 地域資源を活かした観光事業の振興						▶▶▶ 評価シート P45～P46 参照			
外部評価	A	委員評価数				内部評価	A	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	◎
		14	1	0	0				
主な意見		・宿泊観光客数は年々増加傾向にあり、工夫の跡が伺えるし、SNSフォロワー数も増加しており、日々の努力の賜物だと感じた。 ・SNSで石巻の良さを発信するときに、リピーターを増やすように石巻をディープに味わう目的別に、いろいろな時代の歴史とそれに関わる史跡を紹介するページや美しい自然の風景が撮れる場所紹介、震災遺構を紹介するページ等を設けてほしい。 ・SNS等で地元でしか買うことのできない商品、料理などの発信を行うことで、限定感の演出を行う等、石巻市に来てもらうことをもっと促進してみてもいいだろうか。							
今後の方向性		令和7年度には「いしのまき じもとメシ2025」の開催期間中、参加店舗全82店舗の情報を全11回にわたりSNSで発信し、市内ならではの食の魅力のPRに取り組みました。なお、行政が運用するSNSにおいて、特定の商品や土産品を個別に紹介することは、公平性の観点から難しい面がありますが、今後も地域資源や食の魅力を効果的に発信し、石巻への来訪につながる情報発信に努めてまいります。							

第5節 企業誘致の推進と新たな産業の創出						▶▶▶ 評価シート P47～P48 参照			
外部評価	C	委員評価数				内部評価	C	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	△
		0	0	15	0				
主な意見	・企業誘致は石巻市活性化の大きな柱の一つであると考えている。目標が達成できるようさらに工夫研究してほしい。産業の発展は石巻市活性化の要である。長期的見通しも含めて強力に推進すべきである。 ・新しい企業の立地はとても厳しいことだと思っている。今ある企業に、活躍してもらえるような支援策をきめ細やかに行っていたいただければと思う。 ・新規創業の件で、例えば石巻専修大学とタイアップして、学生の起業家を増やす試みをしてはどうだろうか。大学の特徴をアピールすることもでき、入学者の増加につながるのではないかな。								
	本市では、創業機運の醸成を目的として、石巻専修大学の学生を対象とした創業への理解と関心を高めるセミナー（アントレプレナーセミナー）を実施しており、延べ159名が参加されるなど、若い世代の創業意識の向上に取り組んでおります。 今後も石巻専修大学との連携を図りながら、学生の創業機運の醸成に取り組んでまいります。								
第6節 未来の産業を担う人材の確保と育成						▶▶▶ 評価シート P49～P50 参照			
外部評価	A	委員評価数				内部評価	A	定性評価	◎
		A	B	C	D			定量評価	◎
		11	3	1	0				
主な意見	・高校生への企業説明会や企業見学会は、とても良い取組だと思う。その際に、ベテランの方の説明だけでなく若い社員の感想やアドバイスもあるとなお良いのではないかと感じた。 ・合同企業説明会の参加人数が増加しているが、それだけ希望者がいるということなので、できるだけ多種多様な企業を呼び、1人でも多くの就職につながるよう支援をお願いしたい。 ・合同説明会への参加人数を増加させることで、採用につながる人数増を目指してもらいたい。								
	一般向けの合同企業説明会の参加者が少ない原因につきまして、インターネットや求人サイトを利用した就職活動が一般的になってきていることや、求職者と参加企業のマッチングが十分でないことが考えられます。 今後は、ハローワーク等と連携した周知を強化するとともに、求職者ニーズを踏まえた多種多様な企業の参加を促進する等、参加者の増加につながるよう取り組んでまいります。								
今後の方向性									

【基本計画】第5章 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち

第1節 安全に安心して学ぶための教育環境整備の推進

▶▶▶ 評価シート P51～P52 参照

外部評価	A	委員評価数				内部評価	A	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	◎
		13	1	0	0				
主な意見	・備品の充足率は年々向上しているもので、今後もさらに進めてほしい。また、学校校舎等整備については、計画的に進められていると感じている。引き続き、質の高い教育環境の整備をお願いしたい。 ・安全安心な教育環境のために、熊対策もしていかなければならないのではないのでしょうか。対策をしているのであれば、広報をお願いしたい。 ・小中学校の空調設備について、今現在100%になっているのか教えてほしい。								
今後の方向性	現在、石巻市では小中学校の普通教室については整備率100%となっております。特別教室については、29.7%。体育館については、現状では1か所となっており、全体の1.9%ということで、現在建設中の前谷地小学校の体育館につきましては、整備する工事を行っております。既存の体育館につきましては、まず遮熱効果が十分に体育館に備えられているのかというところを今後調査し、順次設置に向けて検討しているところです。								

第2節 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実

▶▶▶ 評価シート P53～P55 参照

外部評価	A	委員評価数				内部評価	A	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	◎
		12	2	0	0				
主な意見	・学校を楽しんでいる児童生徒が93%もいるのは、とてもうれしいことです。教育委員会そして学校の先生方の取組が功を奏しているのだと感じた。これからも児童生徒の学習意欲を大切にしたい取組をお願いしたい。 ・不登校ゼロを目指していただきたい。しかしながら、勉強するスタイルや環境も年々変化していきます。心の負担が少なく、誰もが楽しく学習できるように環境づくりを柔軟に行ってほしいと思う。 ・タブレットなどの電子機器やアプリ・ソフトを勉強に使用することで、注意散漫になり学力が低下するという海外事例もある。子どもたちの立場になって、学習方法を考えてほしいと思う。								
今後の方向性	これからの社会においては、従来の知識暗記にとどまらず、「自ら課題を見つけて学習をコントロールする力（自己調整能力）」や「多様な人々と対話して学びを深める力（協働する力）」、そして「一人ひとりの興味や習熟度に合った学び（個別最適な学び）」を身に付けることが強く求められています。また、ICTの活用力やスキルは、未来を生きる子どもたちにとって必要な力でもあります。本市では、これらの力を育むための有効な手段としてタブレット端末を活用しております。もちろん「じっくり深める場面は紙と鉛筆」、「個に応じた復習や意見共有はタブレット」というように、それぞれの良さを活かした使い分けを実施し、学力向上につなげていきたいと考えております。								

第3節 いのちを守る防災教育の推進

▶▶▶ 評価シート P57～P58 参照

外部評価	D	委員評価数				内部評価	D	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	×
		1	1	1	11				
主な意見	・支援対象児童生徒の解決・好転は、その時その時で難しい時もあり、そのような中でスクールソーシャルワーカーの働きは以前よりも整って頑張っていると思っている。 ・防災教育の推進は、学校行政だけではなく普段から家庭で話し合えるような指導も大事だと考える。 ・被災地の特徴を生かした防災教育の徹底を図ってほしい。 ・防災マップの発表会から一段上げて、大きな震災被害に遭った石巻ならではの未来に向けての防災教育発表会を開催していただけたらと思った。								
今後の方向性	児童生徒が取組んだ防災学習の成果を発信する場として、「石巻市学校防災フォーラム」を毎年開催しております。 フォーラムを通して、復興・防災マップや防災合言葉等の取組を市立学校全体で共有し、これから取り組むべき防災学習の実践の手掛かりとしております。 また、フォーラムには市外の教育及び防災関係部局の方が参加しており、石巻市の防災教育の取組を市外にも発信することも目的としております。なお、今年度のフォーラムでは上記の他に「震災伝承」をテーマとして取り組んでおります。								

第4節 地域ぐるみで子どもを育てる教育活動の推進

▶▶▶ 評価シート P59～P60 参照

外部評価	A	委員評価数				内部評価	A	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	◎
		13	1	0	0				
主な意見	・ジュニア・リーダーの活動が年々盛んになっているのは、とても良いことである。市報や地方紙等で頑張る姿をもっとアピールしてほしい。 ・ふるさと学習は今後ますます重要になってくると思われる。全児童生徒がふるさとを深く知り、ふるさとの良さを発信してくような施策が欲しい。 ・「ふるさと子どもカレッジ」の参加者が少ない原因を探って、もっと子どもたちに参加してもらえるようにしていただきたい。								
今後の方向性	「ふるさと子どもカレッジ」について、単発参加や現地集合といった取組はすでに実施しておりますが、周知不足であると認識しております。今後は高学年向けの案内をはじめ、より伝わりやすい表現や見せ方に改善してまいります。併せて学校でのポスター掲示や保護者向け携帯端末への配信など、情報を確実に届ける広報手段を検討してまいります。 さらに、参加者アンケートで要望の多かった「ものづくり」や「自然体験」をプログラムの柱に据えて魅力を高め、認知度向上と参加促進を一体的に進めることで、事業の継続的な発展につなげていきたいと考えております。								

第5節 豊かな地域社会を育む生涯学習の推進							▶▶▶ 評価シート P61～P62 参照		
外部評価	A	委員評価数				内部評価	A	定性評価	◎
		A	B	C	D			定量評価	◎
		12	2	0	0				
主な意見	・出前講座の充実、図書館利用の促進など良く取り組んでいると感じた。 ・実施内容に工夫が必要ではないか。市民が数名以上集まって、こんなことを勉強したいなどの要望があったら、それに講師を準備するなど、ボトムアップの生涯学習プランをしている自治体が過去にあったので、参考にしてほしい。 ・図書館利用者の年代別利用者数を計測してほしい。本を貸出タイミングなど、アナログでも良いので計測できるのではないだろうか。どの年齢層が来館しているのか、今後來館者を増やすための指針にしていきたい。 ・現在の図書館が手狭になっているので、将来的に新しい図書館の建設を考える必要があると思うが、今後の予定はどうなっているのか。								
今後の方向性	令和3年度策定の「石巻市社会教育・体育施設等適正配置及び長寿命化計画」に基づき、当面は必要な部分改修による長寿命化を図りつつ現施設を維持し、令和13年以降に改築・建替えについて検討する方針です。あわせて、施設規模に応じた駐車場の確保など、市民の方々にとって利用しやすく利便性の高い図書館となるよう取り組んでまいります。								

第6節 生涯にわたるスポーツ活動の推進							▶▶▶ 評価シート P63～P64 参照		
外部評価	A	委員評価数				内部評価	A	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	◎
		13	1	0	0				
主な意見	・体育施設利用者数の増加やスポーツ交流イベント参加者数が増加傾向にあり、努力の跡がうかがえる。今後もスポーツを楽しむ機会を創出するための工夫をさらに進めてほしい。 ・市民マラソンの団体戦（職場、仲間）の、今後の盛りあがりに期待する。 ・気軽に高齢者から子どもまで誰でも参加できるスポーツイベントを行ってほしい。 ・高齢者の方の運動をサポートする取組がもっとあれば良いと思う。								
今後の方向性	スポーツ教室は石巻市スポーツ協会に委託をしている事業であり、例えば特典つきの利用者スタンプカードや高齢者向け教室の増加等、スポーツ協会と実施可能な内容について相談しながら検討してまいります。								

【基本計画】第6章 市民の声が共鳴し市民と行政が共に創るまち

第1節 市民に寄り添い信頼される行政運営の推進

▶▶▶ 評価シート P65～P67 参照

外部評価	A	委員評価数				内部評価	A	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	◎
		10	4	0	0				
主な意見	・推進会議での質問に対し、適切に返答する姿から、職員の質の向上が伺えた。私たち市民も質の向上に努力しなければと感じた。 ・行政が信頼されると同時に、一方的に行政に頼るだけではなく、市民参加型の市政が必要であると考え。市としての長期展望に立った方針と市民総参加のまちづくりが大切だと思う。 ・総合支所がもっとそれぞれの地域と密着した施策が可能になる運営方法を模索できないだろうか。 ・「動く市長室」や「市長室開放デー」について、学生を自主的に参加させるのは難しいと思われる。そこに力をいれるより、どのように学生の声を集めるか、そして市長に届けるかについて検討していただきたい。								
今後の方向性	学生の声を集める方法につきましては、市長が市内の学校や学生が主体となって活動する団体等を訪問し、意見交換を行う場を設けるなど、現在実施している「動く市長室」とは異なる手法について検討を進めてまいります。								

第2節 持続可能な行財政運営の推進									
▶▶▶ 評価シート P69～P71 参照									
外部評価	C	委員評価数				内部評価	C	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	△
		0	0	14	0				
主な意見	・市職員の作業時間の効率化、また、公共料金等の削減努力、ふるさと納税の獲得など努力していると感じた。 ・ふるさと納税もさらなる向上をめざしてがんばっていただきたい。とくに、非常時のお助け箱はとても良い返礼品だと思った。日用品が増えるとリピート率も高くなると思うので、拡充をお願いしたい。 ・今後は限られた予算をどこにどのように活用していくかが大切であり、効果の少ない施策はカットしていくという「スクラップ&ビルド」の考え方も必要である。								
今後の方向性	総合計画後期基本計画において構築したロジックモデルやE B P Mの視点を更に研ぎ澄まし、既存事業のスクラップとブラッシュアップに、より一層果敢に取り組んでまいります。								

令和4年度完了

外部評価	A	委員評価数				内部評価	A	定性評価	◎
		A	B	C	D			定量評価	◎
		13	1	0	0				
主な意見	・震災後の地域コミュニティをどのように構築するかが今後の大きな課題である。 ・復興公営住宅に住んでいる人と、従来から地元に住んでいる人の交流が、活発に行われているとは思えない。 ・復興住宅住民と地元住民との交流を促すため、催し会（茶会、文化祭、バザー、お祭り等）の実施が必要。								
今後の方向性	心の復興事業を通じて、被災者の「孤立防止」や「心身の健康維持」、「コミュニティ形成」を図ってきました。昨年度、実施団体と面談を行った際には、活動継続を希望する団体が多数であったことから、宮城県の「みやぎ地域復興支援助成金」、石巻市の「地域づくり基金事業助成金」等を紹介し、一般施策への移行を図っております。 今後も、復興支援活動や地域活動に活用できる一般施策や各種補助制度等を実施団体に紹介するとともに、活動内容や課題について必要な助言や情報提供を行うなど、円滑に活動を継続できるよう支援してまいります。								

【地方創生の取組】第1章 人口戦略の推進									
対応方針1 安定した雇用を創出し稼ぐまちをつくる					▶▶▶ 評価シート P77～P79 参照				
外部評価	D	委員評価数				内部評価	D	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	×
		0	0	1	13				
主な意見		・移住者、外国人就労者の困り感をすくい取って、ずっと安心して暮らせる施策をお願いしたい。定期的に、こちらから出向いて相談会等を開き、できることから、即時に対応してほしいと思った。 ・介護・医療関係の人材増加に期待したい。 ・奨学金返還支援事業については、中学・高校の期間からPRを実施した方が良いと思う。高校生や中学生に、この事業を周知することも大切なのではないだろうか。							
今後の方向性		事業の周知につきましては、市報、市ホームページでの周知のほか、県内の大学や看護師等の養成機関をはじめ市内医療機関など、計63団体に事業の周知依頼とチラシ設置を行っております。また、今年度は市内高等学校計8校に事業の周知依頼とチラシ設置を行っております。 今後も対象者の目に触れやすい制度周知について工夫し人材確保につなげてまいります。							
対応方針2 絆を大切に人が集まるまちをつくる					▶▶▶ 評価シート P81～P83 参照				
外部評価	C	委員評価数				内部評価	C	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	△
		0	1	12	1				
主な意見		・人口問題は、今後増えていかないことを前提として見直しをしていくなり、人口が減っていくなら具体的にどこに重点を置き絞ってやっていくのか、というところも大事なのではないだろうか。 ・地元の魅力があれば人は集まると思う。魅力ある情報発信に、今まで以上に力を入れてほしい。 ・石巻市内で生活している学生が少ないのではないかと感じているので、若者の移住定住策の一つとして、石巻専修大学の学生が石巻市内で生活できるような手立てを考えることも必要であると考えます。							
今後の方向性		本市では、卒業後の定住を支援するため、市内に居住し、就労した方を対象とした定住促進奨学金返還支援事業を実施しているところです。 一方で、ご指摘のとおり、学生時代から市内で生活し、地域とのつながりを深めることは、卒業後の定住意向の醸成にもつながるものと考えられます。今後とも、若者を取り巻く状況を注視しながら、移住定住施策の推進に努めてまいります。							

対応方針 3 結婚・妊娠・出産・子育ての希望がかなうまちをつくる ▶▶▶ 評価シート P85～P87 参照									
外部評価	C	委員評価数				内部評価	C	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	△
		0	1	13	0				
主な意見	・少子化は石巻市だけの問題ではないが、長期的展望に立って対応を考えていかなければならない大きな課題である。 ・学校を卒業したら、この地域に留まって就業したいと思える企業があるかどうか、女性の流出を抑えることになり、結婚にもつながるのではないかと。 ・子育て施策に関する好印象の事例を探し、石巻市ではこのようなことを行っていると、TVニュース等に流してもらう等、広く広報を行う努力が必要ではないかと。								
今後の方向性	本市では、「石巻市子どもの権利に関する条例」及び「こどもまんなか宣言」に基づき、子ども・若者が自分たちの意見を市政やまちづくりに反映させる取組を推進しております。 その拠点である「石巻市子どもセンターらいつ」は、子どもの「社会へ参加する権利」を体現した拠点であり、全国の自治体・議会・教育関係者からの行政視察が絶えません。子どもたちが主体となって館の運営や地域の課題解決に取り組む姿は、「こどもまんなか社会」の理想的なモデルとして高く評価されています。今後も視察にとどまらず、本市の子育て施策に子どもの声を届ける取組を継続し、市内外への積極的な情報発信に努めてまいります。								
対応方針 4 災害に強く安全安心に暮らせる魅力的なまちをつくる ▶▶▶ 評価シート P89～P92 参照									
外部評価	C	委員評価数				内部評価	C	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	△
		0	1	13	0				
主な意見	・津波が来た時、逃げるための道路や橋の整備、各地区での災害時備品の備蓄、いろいろな災害の時の避難経路、災害マップ、道路標示など良く整備されてきたと感じている。 ・石巻市に住み続けたいと思う市民の割合を増やすには、市民が主体的に参加しやすいような場を設定することが大切である。 ・「防災訓練参加率」について、元気な人は避難訓練に参加することができますが、問題は地域にいる避難できない人たちであって、地域によってこの避難できない人をどのように避難させるのかという部分についてお聞きしたいです。								
今後の方向性	避難行動に一定程度の支援を必要とする方に対し、「避難行動要支援者支援制度」のもと、名簿の登録と避難行動支援計画の作成を行っており、これまで多くの方々に登録をいただいております。様々な身体状況、家族状況等がありますので、周りの方々の協力も得ながら、避難行動の選択肢を高めるということで、地区の民生委員や家族、当事者を含めた中で避難行動支援計画を作成し、1つの目安を示すという取組を行っております。常日頃からご自身のみならず、家族、周りの方々も一定程度の災害を想定した中でのシミュレーションや、平時の備えというところで取組を進めていきたいと思っています。								

【地方創生の取組】第2章 未来都市の実現									
対応方針1 コミュニティを核とした持続可能な地域社会をつくる ▶▶▶ 評価シート P93～P94 参照									
外部評価	A	委員評価数				内部評価	A	定性評価	○
		A	B	C	D			定量評価	◎
		11	3	0	0				
主な意見	・持続可能な地域づくりとして、SDG s の観点から取り組むのは良いが、それがグリーンスローモビリティでは、市民全体の取組にはならない。 ・コミュニティを核とした持続可能な地域社会をつくっていくために、長期展望に立って住民が参加したくなるような施策の創設を工夫していくことである。 ・グリーンスローモビリティが事業終了したとのことで、今後の展開としてはどのように考えているのか。 グリーンスローモビリティの代わりとなる事業を行う場合は、反省点を活かす形で行っていただきたい。								
今後の方向性	事業の終了及び今後の展開につきましては、利用者数の低迷が事業終了の主要因であり、今後も改善が見込めない状況であったことから、グリーンスローモビリティの代替事業を実施することは予定しておりません。高齢者等交通弱者の移動手段確保の観点では、グリーンスローモビリティ事業を実施してきたのぞみ野地区・あゆみ野地区では、これとは別に地域住民が車を共同で使う「コミュニティ・カーシェアリング」が行われているため、需要を賄うことができるものと考えております。								